

12/25

早苗

防衛費 今年も最大5.4兆円

概算要求の主要装備品全取得

二〇二二年度予算案で、防衛費は前年度当初予算から五百八十三億円増（1・1%増）の五兆四千五億円に上り、八年連続で過去最大を更新。先の臨時国会で成立した二一年度補正予算への計上分と合わせ、今夏に概算要求した主要装備品を全て取得可能にする異例の予算編成となつた。

政府は十一月、高額の主要装備品の購入費は当初予算に盛り込む慣例を破り、補正予算に計約七千七百億

円を計上。防衛省の担当者は「補正予算と（当初予算案を）合わせて要出した装備品が全て確保でき、非常に効果があつた」と話す。

二二年度予算案では、射程延長を目指す12式地対艦誘導弾（SSM）の艦艇、戦闘機発射型の開発費に三百九十三億円を充てたほか、最新鋭ステルス戦闘機F35A八機の購入費七百六十八億円、事実上の空母化を進める「いずも」型護衛艦の改修費六十一億円、い

ずもの甲板から離着陸可能なF35B四機の購入費五百十億円などを盛り込んだ。

政府はこうした装備品の敵基地攻撃への転用を否定するが、性能上はいずれも攻撃能力保有につながる。

岸田文雄首相は二二年末までに、敵基地攻撃能力保有の是非を含めた新たな安全保障戦略を策定する方針を示すが、予算案はその結論が出る前に装備品導入を先取りする形となつた。

高額装備品の購入費を複



（川田篤志）